

特集

3

商・材・研・究 入退室管理システム

LAN接続でIP商材に急浮上 情報漏洩防止に一般オフィスも

入退室管理システムは、LANにつながることで通信系ディーラーの商材となった。製品の売上げが好調を維持するなか、各メーカーは中小事業所に強みを持つ通信系ディーラーの販売力に期待する。新規商材を探す販売店に商機が到来した。

「入退室管理システム」は、個人認証によりオフィス各所のドアの電気錠を開閉し、入退者情報を管理する。従来、このシステムを導入するのは、金融機関や研究所といった特定の企業や組織の建造物に限られていた。それが一般企業にまで普及し始めたのは、2005年4月に全面施行された個人情報保護法がきっかけである。

企業の情報漏洩対策は、潜在的に必要性とされていたが、業績に直接影響しないため、なおざりにされてきた面がある。だが個人情報保護法の施行によって、それでは済まなく

なってきたのだ。

出入管理システムメーカーであるアートの小野寺咲子・営業本部システムエンジニアリング部営業企画課長は、「今まで、ビル建造物が造られる際、セキュリティに当てる予算は最後にまわされていた。だが最近ではセキュリティ自体に付加価値が付き、予算化されやすくなっている」と説明する。

初期の入退室管理システムは、単体で完結する閉じたシステムだった。RS-422やRS-485などのケーブルが使われ、電気錠などの開閉と入退者情報管理機能を充足するとど

まっていた。

だが、数年前からLANにつながるシステムが登場し、IPネットワークに乗るようになったことで、LANの機器販売や配線工事を請け負う通信系ディーラーの商材としても注目されるようになってきた。

用途に応じて選べるシステム

まず、製品面でのトレンドを追ってみよう。

入退室管理システムのベーシックな機器構成は、本人認証装置（ID端末）、入退室制御装置（コントローラー）、電気錠、管理用PCからなる。管理用PCが不要なシステムもある。

ID端末には、暗証番号装置や磁気カードリーダー、非接触ICカードリーダーのほかに、指紋認証をはじめとす

る生体認証装置がある。それらを利用に応じてユーザーが選択することになる。

従来から存在するセパレート型の入退室管理システムは、ID端末とコントローラーが別々に用意されている。大規模で強固なセキュリティが築ける半面、設置に手間がかかり、導入コストが高い。

その点を補うべく、数年前から登場したのが、ID端末とコントローラーが一体になったシステムである。簡易に設置でき、導入コストが抑えられる。半面、金融機関や研究所のような非常に強固なセキュリティが必要などところや、大規模な事業所には不向きだ。

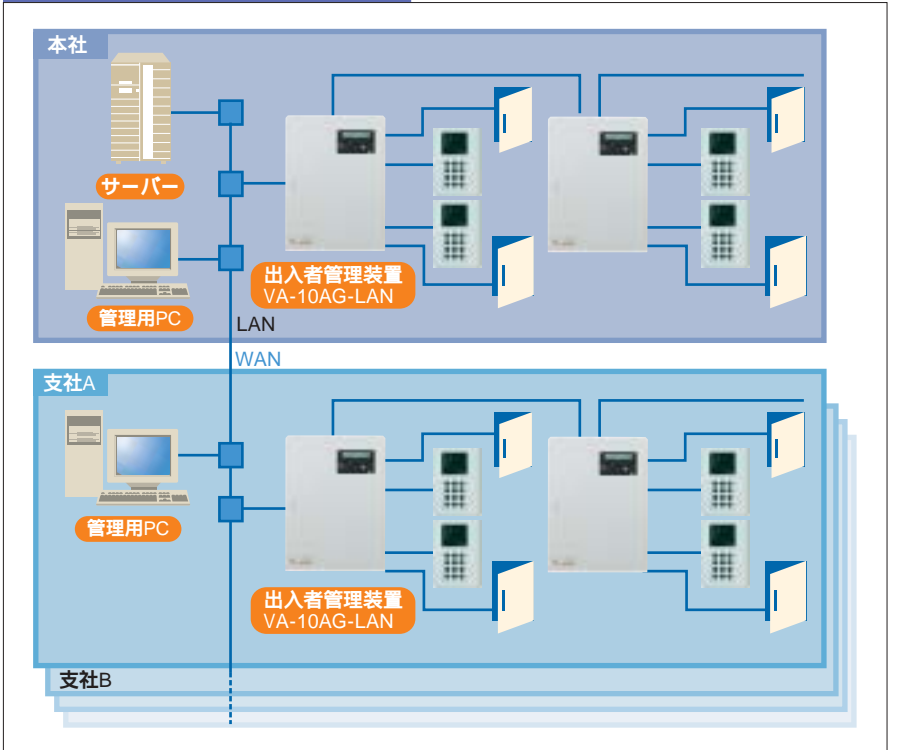
WANの利用で一元管理も

次に実際の製品を見ていこう。今回は、セキュリティ専門メーカーであるアート、クマヒラに加え、ビジネスホンメーカーからこの市場に参入したNECインフロンティアの製品を紹介する。

アートでは、セパレート型と一体型の両タイプの製品を用意しているが、メインとなるのはセパレート型の「V-LINE」シリーズだといふ（図1）。

V-LINEは、発売から9年目を迎えるロングセラー商品。LANに対応するシステムでは、ネットワーク運用で最大800ゲート、4万人の管理が可能。WAN経由で複数拠点をつなぐこともできる。

図1 「V-LINE」のシステム構成例



ロングセラーの理由は、「電気錠の制御がしっかりしている点が評価されていること。Webサイトに定価を表示していることからわかるように、価格面でも訴求できること」（小野寺課長）だといふ。

クマヒラの「GG-1」シリーズも、セパレート型のシステムだ。WANを利用して遠隔地の事業所を一元管理できる点が特徴で、ネットワークカメラや警備センサー、鍵管理装置、キャビネットなども連動できる。

ID端末には、磁気カードリーダーや非接触ICカードリーダー、指紋認証装置などを自社で用意している。また、Wiegandインターフェースを持つ他社の生体認証装置も接続できる。松下

電器産業の虹彩認証装置や、日立エンジニアリングなどの静脈認証装置を利用できる点が強みだ。

GG-1は、8・248・784ゲートを管理できる3種の管理用ソフトウェアを用意。ユーザー企業の規模に合ったシステムを構築できる。なお、8ゲートの場合は管理ソフトを用いず、コントローラー（セキュリティパネル）とID端末、設定・プリントユニット、オプションユニットだけで構成することも可能だ（次ページの図2）。

GG-1の各機器は、LANケーブルから給電できるので、通信系の設備工事業者にとって扱いやすい。クマヒラの船津護・営業企画部課長は、「ID端末としては、非接触ICカードリ

アート
1976年創業の出入管理 専業 "システムメーカー。さまざまなセキュリティシステムの提案から設計、施工、アフターサービスなどの保守管理、リニューアルまで、トータルシステムインテグレーターとして顧客をサポート。本社所在地は東京都品川区

クマヒラ
総合セキュリティ製品メーカー。創業は明治31年。金融機関の金庫設備など、高度なセキュリティが要求される製品の実績が豊富。本社所在地は東京都中央区

Wiegandインターフェース
認証装置とコントローラーの間の通信プロトコルで世界標準の規格。接触/非接触型ICカード、バイオメトリクス認証装置、テンキー装置など、対応機器が多数存在しており、国内でも対応製品が増えつつある